

33 山の神 (やまのかみ)



四本松町

四本松を開拓した、鈴木門五左衛門の屋敷跡である。
門五左衛門が、この地に居を構えた際、皇太神宮を祭ったので、こう呼ばれたという。



34 権現山 (ごんげんやま)



四本松町

熊野神社一帯の地名である。
約450年前、悪疫と飢饉を鎮めるために鈴木門五左衛門が、紀州熊野からこの地に権現三座を勧請した。



35 稲荷通り (いなりどおり)



立野町

光徳寺東を南北に通じている。
弘化3年(1846年)、浜松城主井上河内守が、港稲荷大明神を庄屋に命じて、この寺の境内に祭らせた。



36 山通り (やまどおり)



立野町

かつては、村の中心から富屋方面へ通じる唯一の道だった。
沿道には、農作物の貯蔵庫として利用された兵衛山があった。



37 農免道路 (のうめんどうろ)



立野町

町の東部を南北に走る、町内唯一の道幅8メートルの道路で、昭和40年に建設された。町民の間では「農免」として親しまれている。



38 弥平通り (やへいどおり)



大柳町

旧字弥平廻り、弥平前を通じる東西の道である。
町内には、この外にも人名から付けられたと思われる地名が多かった。



39 屋敷通り (やしきどおり)



大柳町

小字城屋敷と南屋敷を南北に通じる道である。
この辺りには、室町時代末期に城屋敷があったと言われている。



40 嵐野堰跡 (あざみのせぎあと)



嵐野町

芳川に設けた堰の跡である。
この地域では、江戸時代から、農業用水を得るために、堰を設けたが、水害で何回も流されてしまった。



41 雁追山通り (がんおいやまどおり)



嵐野町

町の中央を横断する道路である。
この辺りには、雁追山という小高い丘があり、そこで野鳥をとらえたという。



42 江川中通り (えがわなかどおり)



下江町

大字江川の中央を南北に通じる。
下江町は、下中島、下前島、江川の3つの大字から成立する。それぞれから1字ずつとって、町名とした。



43 東陽中学通り (とうようちゅうがくどおり)



下江町

昭和60年、南陽中学から分離して新設された東陽中学に通じる道である。
芳川地区西南部の生徒の通学路として利用されている。



44 前島中通り (まえじまなかどおり)



下江町

町の東南部、大字前島の中央の通りである。西で、しいの木通りと接している。
付近には、以前の面影が残る。



45 あわい通り (あわいどおり)



御給町

町の中央を横断する通りである。
この辺りは、16世紀までは、天竜川の船道で、「浅瀬と洲の境」という意味で、「あわい」と呼ばれた。



46 柵宜島通り (ねぎしまどおり)



本郷町

掛塚街道から芳川に架かる本郷橋を渡り、芳川公園に通じる道である。
付近の小字を柵宜島というため、このように名付けられた。



47 寺前通り (てらまえどおり)



西伝寺町・頭陀寺町

芳川に架かる名塚橋から、まっすぐ東に延び、飯田地区へ通じる道である。
浄土宗の名刹、西伝寺の前を通っているため、このように名付けられた。



48 旧掛塚街道 (きゅうかけつかいどう)



石原町・本郷町・古川町・芳川町

この道路は、昔から掛塚浜間の主要道路として、行き交う旅人でにぎわった。芳川地区では、掛塚街道とも掛塚往還とも呼ばれた。また、上の姫街道に対して、下街道とも呼ばれた。その道筋は、明治39年に掛塚橋に通じる道路へと変わり、戦後、国道150号として整備された。旧街道は、開発によりその姿を変えたが、地区の一部では、背の高いマキに囲まれた屋敷の間に、昔の面影をしのぶことができる。

